

## 第2学年2組 道徳学習指導案

指導者 中村 幸栄

- 1 主題名 苦しみに負けないために  
内容項目 1－(2) 希望・勇気・強い意志  
資料名 生きるために人は夢を見る－左腕のカメラマン<sup>きわん</sup>林<sup>はやしけんじ</sup>建次  
出典 中学道徳2 きみがいちばんひかるとき 光村図書

### 2. 主題設定の理由

#### (1) ねらいとする価値について

内容項目1－(2)は「価値ある生き方を求め、さまざまな障害を乗り越え、初心を貫き通す強い意志を育てる」ことがねらいである。夢や希望を持つことそしてそれを達成することの継続と繰り返しが、人生を豊かにし、また、その過程に充実感を味わうことができると考える。

中学生という時代は、いろいろなことに興味を持ち、夢や目標を持っている生徒が多くいる。しかし、自分に対する自信と不安が交錯する時期でもあり、強い意志を持ち続けることができずに、多少の障害で弱気になったり、その夢や目標をあきらめてしまうこともある。そこで困難に直面した時にもう一度自分を振り返り、夢や目標をとらえ直して、前進していくことの大切さを本主題を通して考えさせたい。

また、2年生という学年は学習や行事、部活動にじっくりと取り組むことができる時期である。近いところでは合唱コンクールがある。長い練習期間の中で初めに立てたそれぞれの目標があいまいになってしまっている生徒もいる。また、部活動については、3年生が引退し、2年生が中心になった。多くの生徒が色々な部活動に所属し、生徒は努力しているが、今後、困難にぶつかることがあると思われる。それらに対し、強い意志を持って取り組むことで自分自身を向上させることができることに気付かせたい。さらに将来に対しても夢を持つことの大切さを知り、その夢に向かって障害を乗り越えて努力を継続する態度を育てていくことも合わせて考えさせたい。また、人が真剣に生き方を模索する姿は他者の生き方にも大きな影響を与えるということにも気付かせたい。

#### (2) 生徒の実態(男子19名、女子20名、計39名)

全体的に活発な生徒が多い。特に女子に元気で積極的な生徒が多いので、主導権は女子にある。当番・係活動など継続して行う事柄について責任を持って行う意識が弱い傾向がある。前期の期末テストに向けての取り組みは、家庭学習の始まりが夏休み中だったということもあり、目標の設定があいまいな生徒がいた。また、9月初めに予定されていた自然教室が延期になったため、目標や計画を設定し直し、モチベーションを高めることができなかつた生徒が多く見られた。

以下は5月に行ったアンケートの結果である。

項目	大切であり、実行している	大切だが、実行していない	大切ではなく、実行もしていない
① 目標を決め、着実にやり抜く	6人	31人	1人
② 反省と向上	7人	31人	
③理想を持ってその実現に向かってより良く生きる	17人	21人	1人

本校の2年生の全体的な傾向としても①と②の項目については「大切だが実行していない」と答えた生徒が多いが、その差は多くない。しかし本クラスの生徒の人数は極端に多いと言える。また、③について、他クラスの生徒は「大切であり、実行している」と考える生徒のほうが多い。したがって、2学年全体の

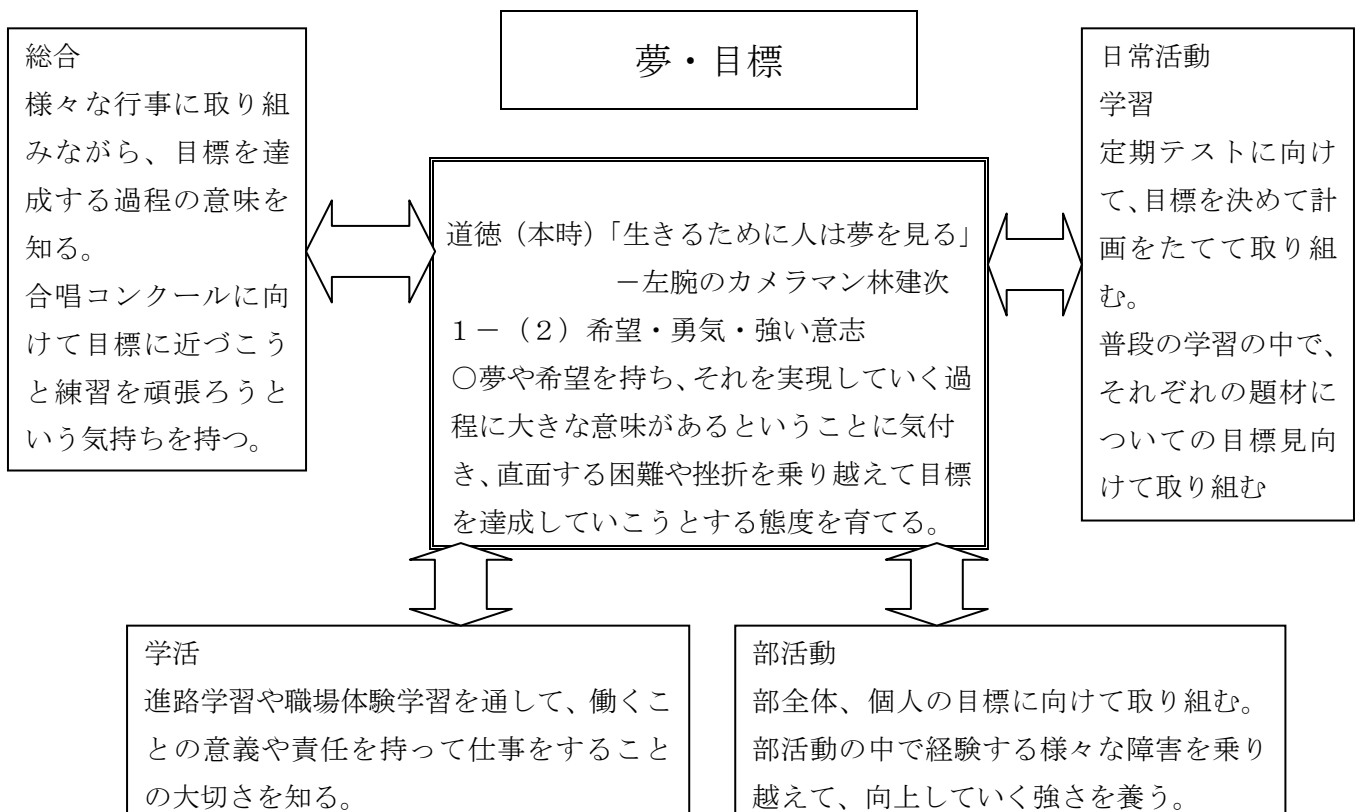
傾向に対して本クラスの生徒の特徴として、夢や理想に向かって継続して努力し、より良い生き方をして行こうとする考えが弱いと考えられる。

本授業を通し、より高い目標、理想、夢の実現に向けて努力していくことの大切さに気付かせ、普段の生活から努力を継続させていく態度を養いたい。

### (3) 資料について

カメラマンを目指していた林建次は、交通事故のため右腕の自由を失ってしまう。苦しみと焦りの中で、カメラマンになる夢に支えられて再び立ち上がり、やがて精一杯生きるボクサーを撮るようになるまでの半生を著したノンフィクションである。本資料を通して価値ある生き方を求め、様々な障害を乗り越えて、初心を貫き通す強い意志の大切さについて話し合わせたい。また、生きることの厳しさ、喜び、希望、勇気、人間の強さについても感得させたい。

## 3. 指導構想



## 4. 本時の指導

### (1) ねらい

夢や希望を持ち、それを実現していく過程に大きな意味があるということに気付き、直面する困難や挫折を乗り越えて目標を達成していこうとする態度を育てる。

### (2) 展開

過程	学習活動と発問	予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入 (5)	1. 今日の資料の人物について紹介する。 ①林建次さんというカメラマンを知っていますか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知らない。</li> <li>・知っている。右腕が使えない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・林建次の写真集を見せながら、林建次に注目させる。</li> <li>・TV に林建次の写真を写す。</li> <li>・範読する。</li> </ul>
展開	2. 資料「生きるために人は夢を見る」を読んで話し合う。		
前段 (15)	<p>(「とごまかした」まで読む。)</p> <p>発問① 事故の後、治療で3年が過ぎ、写真スタジオの同期がそれぞれの目標を見つけて巣立って行った時、林さんはどんな気もちだったのでしょうか。</p> <p>(「夢がゆっくりと広がった」まで読む。)</p> <p>発問② 林さんが「人間として精一杯生きる」ボクサーたちの姿を撮りたいと思うようになったのはなぜだと思いますか。そこに写真が載っていますが、画面で見てください。(コメント付きの写真を見せる。)</p> <p>補1 林さんがボクシングにひかれるのはどのような気持ちからか。</p> <p>補2 人間としての彼らの姿を撮りたいと思うようになったのはどうしてか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・なぜ自分だけこんな不幸になったのか。</li> <li>・もう立ち直れないのではないか。</li> <li>・このままでいいのか。</li> <li>・自分も早く目標を見つけなければならない。</li> <li>・小さい時からボクシングが好きだったから。</li> <li>・リング上で一生懸命戦う姿がとてもしっかりと思ったから。</li> <li>・ボクシングは人生の縮図で自分の人生と重なるから。</li> <li>・人間として精一杯生きる彼らの姿を通して人生を撮りたい。</li> <li>・一人ではなく周りの人々に支えられているということを伝えたい。</li> <li>・迷いながらも新しい夢を見つけて立ち上がることの素晴らしさを伝えたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人取り残された焦りやさみしさ、怒りなどの林の苦しさを感じ取らせる。</li> <li>・困難を抱えながら自分の生き方を模索する林の心情を理解させる。</li> <li>・精一杯生きている林だから、ボクサーの生きる姿に共感できたことに気付かせる。</li> <li>・周りの人々の支えがあって懸命に生きられること、またその姿が周りの人々に影響を与えることに気付かせる。</li> </ul>
後段 (15)	<p>(最後まで読む。)</p> <p>発問③ (中心発問)</p> <p>「生きるために人は夢を見る」という林さんの言葉に</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夢を見るというのは大事なことだ。</li> <li>・人は常に目標を見つけ、それに向かって進んでいかなければ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・困難を乗り越え、夢に近づくことの繰り返しが人生であることに気付かせる。</li> <li>・4～5人のグループで話</li> </ul>

<p>終末 (15)</p>	<p>はどのような気持ちが込められているのでしょうか。</p> <p>どのようにしてこれからの困難に打ち勝って生きていくかについて考える。</p> <p>① 林さんやボクサーの名言があるので紹介します。</p> <p>② 困難に打ち勝つのに必要なことは何でしょう。</p> <p>③ さんの半生を読んで、また、今日の授業を受けて考えたことや感じたことを書きましょう。</p>	<p>ればならない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 目標に近づこうとする意志が、困難を乗り越える力を与え、人生を豊かにする。</li> <li>・ 部活でレギュラーになれると思っていたのになれずに、やる気をなくしてしまったことがあった。でも林さんのことを読んで、頑張っ続けていくことで、未来が開けるんだと思った。これからもあきらめずに取り組んでいこうと思う。</li> </ul>	<p>し合い、発表させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 切り返しの質問をすることで考えを深める。</li> <li>・ もう一度今日の授業について振り返る。</li> <li>・ 過去または現在目標や夢をあきらめたこと、あきらめそうになったことがあれば、それについて書かせる。あきらめずに頑張ったことがあればそれについても書かせ、自分に自信を持たせる。</li> </ul>
--------------------	---	--	--

# 「生きるために人は夢を見る」 —左腕のカメラマン 林建次

伊藤 史織著

ボクシングの試合が始まった。リングサイドで一斉にシャッターの音が鳴る。炸裂するパンチ、ゆがむ顔。時には血しぶきを浴びながら、カメラマンたちは勝負の一瞬を追い求めてカメラから顔を離さない。しかし、一人だけ顔を上げているカメラマンがいる。レンズを左手で支え、シャッターボタンに取り付けた\*レリーズを口にくわえ、右手をぶらりと垂らしている。そして、ほかのカメラマンがカメラを置いた瞬間、一人、パシャパシャと音を立ててシャッターを切る。いったい、彼は何を撮っているのだろうか。彼の名は林建次。ボクサーたちは、彼を「左腕のカメラマン」とよんでいる。

注) レリーズ：カメラのシャッターボタンに取り付けるケーブルで、ついているボタンを押すことで、シャッターの開閉を離れた場所から操作することができる。

1993（平成5）年10月23日、林はオートバイに乗っていた。前を走っていた車が急ブレーキをかけた。突然の出来事に、対処する間もなく激突。体はほうり出され、道路にたたきつけられた。当時、23歳。写真スタジオでアシスタントを務めていた。事故の直後、林は、カメラマンになりたくて選んだ道なのに、本気で写真と向き合ってこなかった自分に罰が下ったのだと思った。

事故の衝撃で、右腕の神経は脊髄から引き抜かれ、手術を繰り返してなんとかでのひらは動かせるようになったが、とめどもなく襲ってくる激しい痛みが残った。三度にわたる入退院とリハビリで、23歳から26歳までの貴重な三年間が費やされ、その間、写真スタジオの同期たちは、それぞれに目標を見つけて巣立っていた。自分だけ取り残された。未来が見えないどん底で、林は、本気で写真と向き合ってこなかった過去の自分を思い出した。「そうだ。撮りたいものを撮らないまま夢をあきらめるわけにはいかない。」何気なく掲げていた目標が事故に遭ったことで、はっきりとしたものになった。

それでも、仕事を探し始めると自信が揺らいだ。右腕の動かない自分に本当に写真が撮れるのだろうか。目標をいったん横に置いて、片手でも支障のない仕事の面接に出向いた。しかし、行ってみると募集はすでに終わっていた。がっかりしたそのとき、写真館の求人広告が目にとまった。「スタジオカメラマン募集」。やるしかないという覚悟を決めた。スタジオ内での撮影なら、カメラは三脚で固定できる。左手だけでも撮れるかもしれない。右腕のことを隠すつもりはなかった。ただ、「治るんだろ。」ときかれ、とっさに「撮影に支障はないです。」とごまかした。



林は、その写真館で七五三の記念撮影などの仕事をしながら自信を取り戻していった。目標に一步近づいた。次は「撮りたいもの」を探す番だ。この時、ふと頭に浮かんだのが、子供のころから好きだったボクシングだった。リングの上で体一つで闘うボクサーの姿がかっこいいと思っていた。ちょうどそのころ、当時住んでいた沿線に、新しいボクシングジムができたことを知った。会長は、世界チャンピオンを育てた名トレーナーだ。新しいジムのスタートにカメラマンとして自分のスタートを重ねた林は、勇気を振り絞る。だれの紹介もないまま、ジムを訪れ、こう申し出た。

「写真を撮らせてください。」

会長は何も聞かずに快諾<sup>かいだく</sup>した。林の熱意を買ったのである。新しい世界に受け入れてもらえた喜びに、林は興奮した。

ところが、実際にジムに通い始めると、思ったように写真が撮れない。写真館のようにカメラを三脚で固定しては、ボクサーの激しい動きを追うことができないのだ。三脚よりも簡単に向きを変えられる一脚なども試したがうまくいかない。しかし、あれやこれやの試行錯誤<sup>しこうご</sup>は、撮りたいという欲求をさらに駆り立てた。林は楽しくてたまらなかった。撮るための苦勞よりも、撮れる喜びの方がずっと大きかったのだ。そうこうするうちに、レリーズを見つけた。左手でカメラを持ち、レリーズを口にくわえ、歯でシャッターを切るという林のスタイルが、確立されていった。

林は、仕事で得た給与<sup>きゅうよ</sup>のほとんどをフィルムとプリント代につぎ込み、撮影した写真を本の形にして選手に渡した。照れながらページをめくる彼らの笑顔<sup>えがお</sup>がうれしかった。どの選手も四回戦<sup>よっかいせん</sup>ボーイで、観客の少ないリングに立っている。彼らが、いつか満員の観客の前でスポットライトを浴び、チャンピオンへの階段<sup>のぼ</sup>を昇っていく姿を見守りたい、いや、自分もいっしょにその階段を昇りたい、と願うようになっていた。

やがて、林は、ボクサーとしてでなく、人間として精いっぱい

生きる彼らの姿を撮りたいと思うようになる。夢を追い、孤独な闘いを繰り広げる選手と、その闘いを支える家族や仲間たち。試合会場だけでなく、選手の日常の場や生まれ故郷にも出向く林を、彼らは温かく受け入れた。ようやく自分が撮るべきものを見つけたと思った。彼らとの出会いから得た感動、生きる喜び、苦しみ、辛さ、それら全部をたくさんの人たちに伝えたい。事故に遭う前には見えなかつ



試合の直前、選手は静かに呼吸を始める。何ヶ月にもわたって過酷な練習とトレーニングで肉體と精神を鍛え上げてきた。もう勝つにはできない。この瞬間、林は、夢見にがっかりした人だけがたどり着ける素晴らしい世界を見る。――

日中は会社で働くサラリーマン。仕事が終わってから毎日ジムに通う。



た夢が、ゆっくりと広がった。

四回戦ボーイ：プロボクサーは、ライセンス取得後、1試合に4ラウンド（4回）までしか行わない対戦から始めるため、デビューまもない選手のことをこう呼ぶ。

初めてジムに飛び込んでから十年が過ぎた。独立し、フリーのカメラマンとして仕事の幅も広がってきた。右手の痛みは決して消えることはなく、「今日の痛みはたいしたことはありませんように。」と祈る日々だ。それでも林は、原点を忘れず選手の写真を撮り続けている。ボクシングは人生の縮図だ。どれほど苦しい思いをしてがんば

っても、一瞬で夢を打ち砕かれることがある。たとえ栄光をつかんでも、持続できるわけではない。それでも、「生きる」ということは終わらない。明日を見つめて、新しい一歩を踏み出さなければならない。迷いながら、苦しみながらも、新しい夢を見つけて立ち上がる。林もまた、ざせつしそうになっても、夢を見つけ、立ち上がってきた。「生きるために人は夢を見る。」林の口癖である。



「妻や子どもの前では絶対に倒れない。」と心に決めてリングに上がる。



## 「生きるために人は夢を見る」―左腕のカメラマン林建次

○「生きるために人は夢を見る」という林さんの言葉にはどのような気持ちが込められているでしょうか。

自分の考え

班の友達を考え

ほかの班の人の考え

○林さんの半生を読み、また、今日の授業を振り返って考えたことや感じたことを書きましょう。

2年（ ）組（ ）番 氏名（ ）



